SAPPORO 教区 NEWS
第１号
2005年7月31日
発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060 - 0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
Tel. 011 - 241 - 2785 ／ホームページ：http://www.csd.or.jp

「聖体の年」大会開催される

「キリストの聖体」の主日 5月29日午前10時から開催

札幌教区主催、札幌地区宣教司牧評議会が実行委員となり「聖体の年を祝って『聖体の年』大会」が藤学園講堂で行われた。参加者は８００人を越え、「盛会のうちに終了することができ感謝します」と、札幌地区宣司評の澤田喜實事務局長は語っています。

地主司教様の「主の食卓に招かれたものは幸い」と題して「聖体」についての講話で新しい気付きをいただき、その後のミサでは主キリストご自身が捧げるミサ、一致と交わりのお恵みをいただき、感謝の心で満たされた1日でした。

司教様のお話しは次のようなものでした。

教皇様ヨハネ・パウロ2世が昨年10月10日から今年10月29日までを「聖体の年」とすることを発表されました。この時に私たちは教区レベルでも聖体について考え、思いを深くしながら一緒に聖体を祝う式が開催できることをうれしく思います。

教皇様は教会自身がキリストとの交わりの中で、教会をかたちづくる民が全世界と和解していくために交わりを求めようとし、また、教会内部でみなの交わりが教会の頂点と基盤とであると考えられました。

「交わり」を「コンムニオ」といい、外国語では聖体拝領のことをいい、一致とか交わりのことでキリストを通じて神様と、またこれを分け合った兄弟たちとの一致です。キリストはあの最後の晩餐で、十字架上のいけにえと、そして復活とを結びつけてご聖体を制定し、新しい契約、新約を結びました。

最後の晩餐においてご自分の体と血を与え、神と人間との新しい関係を打ち立てられた。これが聖体の出発点です。別の言葉でいえば最初のミサでありました。

使徒たちに「私の記念として行いなさい」といわれて、この意味で永続する記念ですし、今でも現存しているものです。

このご聖体はある意味で秘跡の秘跡、目に見えないひとつの神様からの神秘的な秘跡なのです。私たちはこれによって生かされて、初めて共同体に、集会、多くのキリストを信じる人たちが集まって、神を讃え、感謝をし、またその愛を確かめ合う集いが、教会を形成してゆくのです。これが聖体の持つ意味です。

教会生活でのコンムニオ、交わりはキリストから教えられた愛を実行するため、もちろん神は愛であり、神がどれくらい人を愛したかということを知るためでもあります。

その愛が、神が人々を愛したから、人々はみな兄弟であるという思いにいたるためです。

そして、それは宣教になってきました。神様の愛を知らせるあの初代教会のように。さらに教会内での典礼や活動の役割分担を持ちました。みんなでミサをしました。その中で各々が役割を果たしました。

司祭はその奉仕のために特に選ばれ、叙階の秘跡に

よってその奉仕者として、キリストの代理者として、この民の祈りをまとめて生け贄として捧げ、キリストの生け贄の祈りを捧げる役目をしているのです。

ですから教会も、ご聖体もイエス様から、上からきたものです。上からきたものを受けとめ、それの中で成長し、それを自分の頂点として、受けとめていくのが教会です。

ですからミサは常にキリストと、教会とともに捧げていること、開かれた教会、全教会の一致のことを忘れないでください。

そして「コンムニオ」のもう1つの意味は使徒信条を唱えるとき「コンムニオサントゥムール」です。諸聖人との通功と日本語は訳しています。通功も聖体拝領も同じ言葉「コンムニオ、交わり」です。

この聖人たち、亡くなった方もこの世で生きている人も互いに祈り合い、祈りをもって互いのあいだで交流できます。本当にその祈りが届いており、神様を通じて互いに祈りあえるのです。

この聖徒の交わりを私たちは信じています。それは聖体を通じてさらに深められ、ひとつの頂点に達っします。教会の活動もそして人々との交わりも社会における私の奉仕もこのコンムニオから得た力で果たしていくのが教会活動の出発点ではないでしょうか。全体としての交わりの中で、私たちは神との一致、それの恵みに、それの中に入るのです。また、宣教する力にもなります。「主の食卓に招かれたものは幸い」という言葉は、真にこのコンムニオを通じていわれると思います。

私たちがいろいろな宣教とか、家庭の仕事、社会における役割などを果たすために、このコンムニオによって力を受け、またそれを還元することが出来るよう、私たちは大切にしていきたいと思います。

このイエスから与えられたこの素晴らしい遺産を大切にし、これを私たちの中心に据えて行きたいと思います。

（講話より）

映画　マザー・テレサ

どんな困難が
あなたを鋼のように強くし
どんな痛みが
あなたの愛を海のように深くしたのか。

青い線の入った白いサリーに身を包んだその小さな身体に、強い意志と深い愛を秘め、不可能を可能にしていった一人の女性。ひたむきで、頑固で、ときには命懸けで、自分自身の信じる道を歩み続けたマザー・テレサの真実のドラマが、今スクリーンに蘇る。（9月中旬よりシアターキノにて上映されます。）

私たちの行いは大海の一滴にすぎません。
でも何もしなければその一滴も永遠にうしなわれます。

１９４６年、インドのカルカッタ。カトリックの修道院の中にある女子校で教鞭をとっていたマザー・テレサ（オリビア・ハッセー）は、神の声を聞き、自分の居場所が修道院の中ではなく、カルカッタの最も貧しい人々のところだと気づく。

そして４年後。従来の修道会に属しながらの活動に限界を感じた彼女は、新しい修道会《神の愛の宣教者会》を創立する。

世界6カ国から集まった８０００人のキャストと、総勢２００人のスタッフを従え、カルカッタ、ローマ、トリエステ、コロンボほかでロケを敢行。一人の女性の波乱の人生を堂々たるスケールの映画へと作り上げた。

（試写会を見て・S）

新・地区長に聴く

18年ぶりに函館の教会へ

新函館地区長　今田　玄五神父

昨年5月より念願のサバティカル（研修休暇）を頂き、トラピスト修道院で「祈りと労働と沈黙」のうちに恵まれた日々を過ごしましたが、この春の司祭の人事異動で、また娑婆の教会に呼び戻されました。司教様が決めてくださった私の新しい任地は、思いがけず函館の教会でした。

函館は私の生まれ故郷で中学卒業までの15年半、神学生時代の中間期の1年間（1971年）を、宮前町教会から徒歩3分のところにある実家で暮らしました。

神父になってからも1984年の春から87年の春までの3年間、湯の川教会を担当したことがありますので、今回は4度目の函館市民となり、18年ぶりに函館の教会に復帰したことになります。

6月から出身教会である宮前町教会の主任司祭となりました。宮前町教会はこのたび聖堂が全く新しく立て直され、5月8日（日）に献堂式が行われ、それが済むまで宮部神父様が責任をとられましたので、4月、5月の2ヶ月間は湯の川教会の留守番役を仰せつかり、4月3日（日）のミサで18年ぶりに湯の川の信者の皆さんと再会しとても懐かしかったです。

函館地区の教会で40数年間働いてくださったウィンダル神父さんが、病気療養のためフランスに帰国されることになり、私は地区長の役目も担わなければなりません。ウィンダル神父さんは、私が小学五年生のとき宮前町教会に助任司祭として赴任されました。主任は故ケヌエル神父さんでした。私は少年時代にこういうパリミッション会の神父さんたちにかわいがられて教会生活を送り、ミサでは侍者をさせていただき、信仰を育てられ「自分も神父になりたい」と思って、中学卒業と同時に、当時札幌にあった小神学校に行ったのでした。また、函館の信者の皆さんには物心両面のご支援を受けて司祭職への道を歩みました。このたびの異動で、また故郷の教会と深くかかわることとなりましたが、子どもの頃にお世話になった大先輩の神父さんたちや信者の皆さんに感謝の気持ちを持ちながら、微力ではありますが、それなりに出身教会の主任司祭（江差教会兼任）と、函館地区長の務めを果たしたいと願っています。

函館地区の司祭の新チームが揃うのは、9月にオール神父さんが湯の川教会に着任してからになります。それまで、少々落ち着かないところもありますが、オール神父さんが来たら、ロー神父さん（元町、八雲教会兼任）、小山神父さん（当別教会）とよく相談し、信徒の皆さんともよく話し合って、函館地区の教会の福音宣教、司牧のあり方と実践を模索していきたいと思って居ます。新しくなった宮前町教会は、1つの小教区であるとともに函館地区の中心教会という発想で建てられたと聞いています。司祭たちも小教区の主任司祭であるとともに、函館地区全体のための司祭という意識をもって互いに足りないところをカバー仕合ながら、信徒の皆さんとともに前進していけたらいいなあと思っています。

函館地区の皆さん、そして全道の皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

今田神父様の略歴

1948年10月20日　函館に生まれる
1948年10月22日　宮前町で受洗
1971年３月　上智大学哲学科卒業
1976年３月　上智大学神学科卒業
1976年６月６日　司祭叙階
大麻、月寒、湯川、東京カトリック神学院、北見、網走、美幌、北１条、山鼻、真駒内教会司祭を歴任

信徒の方々へのメッセージ

新旭川地区長　鈴木　央神父

初めにお断りしておきたい事は、旭川市内の宣教司牧の方法と、他の町のそれとは明らかに違いがありますし、司祭各々の考え方も違って当然だと考えております。ただ、この先今以上の司祭の減少と高齢化を考えるならば、従来のやり方だけでは、宣教司牧も覚束無い筈です。

さらに、信徒使徒職が提唱された第二次ヴァチカン公会議から40年たった今でも、私たちの学んだ神学が古かったのか、まだ上意下達式の構造を抜け出せない部分が多々あります。私自身の姿勢も反省しながら、キリストの共通司祭職に与る信徒、修道者、司祭、司教の協力態勢（1984年日本の司教団による基本方針と優先課題参照）を再構築して行こうと思います。

聖霊の導きの下、世界の司教達の知恵を結集した公会議やシノドス、日本で行われたナイス（福音宣教推進全国会議）の中にも、脈々と受け継がれて来たキリストの心を、1人でも多くの人に伝えなくてはなりません。

キリストの心を伝える福音宣教の為に、新たな司祭職への召命を祈り求めながら、恐れる事無く、多くの可能性にチャレンジして行きたいと考えて居ります。

旭川市内4教会は（末広は大町に統合された）7月より2名の司祭で司牧しております。以前から行って来た信徒の養成を更に推し進め、特に集会祭儀や火葬場の祈り、教会学校の先生や未洗者の結婚式の司式、病人の聖体拝領等、可能な限り取り組んで頂く所存です。

鈴木神父様の略歴

1950年11月4日　札幌に生まれる
1951年１月14日　山鼻にて受洗
1969年　フランシスコ会に入会
1974年３月　南山大学哲学科卒業
1978年　聖アントニオ大神学校卒業
1978年３月11日　司祭叙階
北11条教会、羽幌教会、旭川６条教会、名寄教会、旭川大町教会司祭を歴任

北海道ダルク・たか作

札幌教区の信徒のみなさんへ

新北見地区長　川上　剛神父

12年ぶりに　また、内地からこちらに戻って来ました。赴任して3ヶ月が過ぎ、教会の中も周りの様子も様変わりしたことを改めて多々感じています。12年の歳月の重みをしっかりと受け止めて再出発していきたいと思っています。

ところで、今年は北見地区が札幌教区長からフランシスコ会・オランダ管区に宣教を正式に委託されて50年になります。8月末に地主司教様を迎えてそのお祝いのミサ・式典が予定されていますが、その際に発行される50周年記念誌「北のあゆみ」に掲載しましたメッセージをこの場をお借りして皆さまにもお伝えすることにいたしました。悪しからずご了承ください。

これまで北見地区の教会を支えてくださった多くの方々に感謝しつつ、また、これからも皆さんの祈りに助けられながら歩んでいくことを心から願いながら…。

「新しい皮袋に…」

―これからの北見地区の宣教

地区宣教50周年に際して、あらためて25周年記念誌「25年のあゆみ」に目を通してみました。それは、「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです」という、過日亡くなられた教皇ヨハネ・パウロ2世の来日の際の広島アピールの中の一節が私の中に甦って来たからです。

過去を振り返ることは自己満足のためでもなく、またうつわ不足、力量不足に茫然自失して諦めてしまうためでもありません。あらゆる意味で小さな者、小さな民である私たちを、それにも拘らず支え、お使いになる神のみ手に対する信仰を新たにし、将来への責任を担っていくエネルギーを私たちが汲み取るためなのです。

北見地区のこれまでの福音宣教の旅は今年、50年という1つの区切りの時を迎えました。とはいえ、考えて見ればまだ始まったばかりとも言えますし、これでひと安心と休んでもいられません。

「宣教師来たりて住み、十字架の聳える聖堂を建て、信徒を集めたりき」のパターンから、すでにこの世にある福音的実りである「新しいぶどう酒」を人々の中に見出し、それに共感して生きる感性を1人1人が身に付け、初心に帰って新しい一歩を踏み出す旅―「新しい皮袋」―をこれからも続けて行きたいと心から念じています。（記念誌「北のあゆみ」より引用）

川上神父様の略歴

1942年８月16日　サハリンに生まれる
1965年３月　東京関町教会にて受洗
1970年３月　フランシスコ会北浦和修道院に入会
1976年７月18日　北11条教会にて司祭叙階
旭川・神居教会、旭川藤女子高校、北見地区５教会、栃木県・小山教会、鹿沼教会など司祭・教諭を歴任

北海道ダルク・たか作

2005年 札幌教区全道司祭大会開催

7月4日(月)から6日(水)の3日間開催

札幌市定山渓で2005年札幌教区全道司祭大会が地主司教様始め37名の司祭が参加して行なわれた。

― 司教あいさつ ―

今年は、～信徒の立場から見た福音宣教～へスポットをあて、3人の信徒の方々に、それぞれの立場からの提言を頂いた。

第1日目は、カリタス家庭支援センターの堤代表から、同センターに寄せられた相談内容を踏まえ、同センターと小教区との関わり方や、これからの展望とその必要性が述べられた。

第2日目の午前中は、小野幌教会の水上泰助氏と手稲教会の阿部包氏から提言を頂き、午後からは、北見地区長の川上剛師から司祭としての立場から提言をいただいた。

その後、小グループに分かれて分かち合いを行い有意義な3日間を過ごした。

― 講　演 ―

― 分かち合い ―

旭川５条教会　献堂式

＝教会の意味を　もう１度確認しよう＝

― 旭川五条教会 ―

― 献堂式ミサ ―

4月29日（みどりの日）、曇り空の中、旭川宣教１００年記念ならびに旭川５条教会の新聖堂の献堂のためのミサが行われた。

ミサには、地主司教様はじめ司祭11人と、５００人余りの信徒の人々が参加し、共に主の食卓を囲み、この日を迎えられたことへの感謝と喜びのうちに祈りが捧げられた。

司式を行った教区長である地主敏夫司教は、説教の中で「教会の意味をもう１度皆さんで確認したいと思います。キリストによって集められた共同体であり、社会に開かれていることです。……（中略）……皆さんがこれから歩んでいく中で、それを心にとめてまいりましょう。」と語った。

また、司教様や鈴木旭川地区長の手で記念の植樹が行われた。この記念樹の成長と共に、みんながキリストの下にひとつに集まり、さらなる開かれた教会創りをしていくことを参加者はともに祈った。

― 記念植樹 ―

旭川市内で新たな司牧態勢が進められていく中で、新聖堂の献堂式が執り行われたことは、これからのキリスト者としての私たちの進む道を暗示しているようにも思え感慨深いものを感じざるを得ない。

また、祝賀会は、旭川市内のホテルで催され、地主司教様はじめ鈴木旭川地区長ら司祭方、信徒の人々が参加し、和やかな雰囲気の中で行われた。

旭川５条教会の歴史

１９０４（明治37）年11月25日パリ外国宣教会士ウット師によって創設。就任当時は若干の信徒が農村に散在していて、信仰を実践している信徒は１人もいなかった。１軒の小さな家を借りて釜范伝道師と住んでいた。後に、土地を入手し平屋45・3坪の仮聖堂を建て、１９０９（明治42）年五月二十日ベルリオーズ司教様の下で新聖堂の聖別式が行われた。１９４９（昭和24）年九月に旭川地区はフランシスコ会フルダ管区が担当することとなる。２００４年には献堂１００周年を迎えた。

宮前町教会　献堂式

＝福音の種を　蒔き続けよう＝

― 宮前町教会 ―

5月8日（日）曇り空ではあったが、新しく建設された宮前町教会に６００人近い人々が集まり、聖堂は満員御礼に喜び溢れていた。

一昨年秋に建設準備のため奔走していた前函館地区長のモーリス・ウィンダル師（前元町教会主任）が病で倒れ、九死に一生を得た後、フランスで病気加療をしていたが、この4月に函館に戻り、献堂式に元気な姿を見せてくれたのは嬉しい限りである。

また、主任司祭の宮部登師も3年前から病気療養を受けながらも、この日までの準備を引き継ぎ、この日の喜びは信徒とともにひとしお大きいものとなった。

司式した地主敏夫司教は、ミサの説教の中で、「素晴しい教会が出来上がりました。しかし、この教会に魂を入れてください。それがなければ教会という存在の意味がなくなります。過去の宣教師たちが蒔いた福音の種をこれからも蒔き続けましょう。」と激励の言葉を送った。

祭壇には司教を含めて９人の司祭が主の食卓を囲み、祭壇奉仕の子供たちも喜びの笑みをいっぱいにしていた。

宮前町教会は、かつて亀田教会として出発したが、その後、この宮前の地に移転し、今日まで、木造聖堂として趣のあった教会堂として親しまれてきた。しかし、近年老朽化が激しく、新しい教会建設に向かって教会建設準備委員会を発足し、献堂式の晴れの日を迎えることができた。構造は鉄筋コンクリート造2階建て、建築面積８５７．０２㎡、延べ床面積８５２．７１㎡、高さ１０．４８ｍの卵型平面建築である。両隣の建物との間に扇形の空間を確保した。聖堂での収容人数は５００人、壁は残響拡散機能をもつように設計され、残響音を数秒ほどで変化させることを可能にした。

この4月から函館地区長に就任した今田　玄五神父は、祝賀会の終わりの席で挨拶に立ち「新しい教会は、函館地区の中心聖堂で、みんなの教会です。みんながひとつになって開かれた教会づくりができるよう共に歩んで参りましょう。」と新たな目標に向かって祝辞を述べられた。

宮前町教会の歴史

ベルリオーズ司教様によって１９０１（明治34）年に創設された亀田教会が基礎。当初はパリ外国宣教会士が担当していたが、１９０９（明治42）年からフランシスコ修道会士が、１９３１（昭和６）年からはドミニコ会カナダ管区に函館教区は移管される。同時に宮前町と改名されたのを受けて、亀田教会から宮前町教会と呼称するようになる。

札幌教区2004年度決算概況
教区という単位を考える

カトリック教会は、教会法上でも日本の宗教法人法上でも教区を基本的な単位としています。従って、カトリック札幌司教区という１つの法人に、各小教区が属し、会計も教区会計として集計し、所轄官庁（札幌教区の場合は、北海道のみで活動してるので北海道が所轄官庁）に報告します。

札幌教区の財政を支えるのは信者の皆さんです。皆さんからの月定献金（教会維持費）やミサ献金、教会建設などのための特別事業献金、祭儀献金、寄付金が小教区収入の大方を占めています。（下図を参照）

◇　教区本部財政

各地区・小教区から頂いた教区本部分担金をもとに、本来、教会が行うべき活動を担っている諸団体への助成（札幌カリタス）や、教区全体にかかわる宣教司牧活動を支えています。

２００４年度は赤字で、不足分は司祭祭儀献金からの振り替えなどで賄っている状態です。

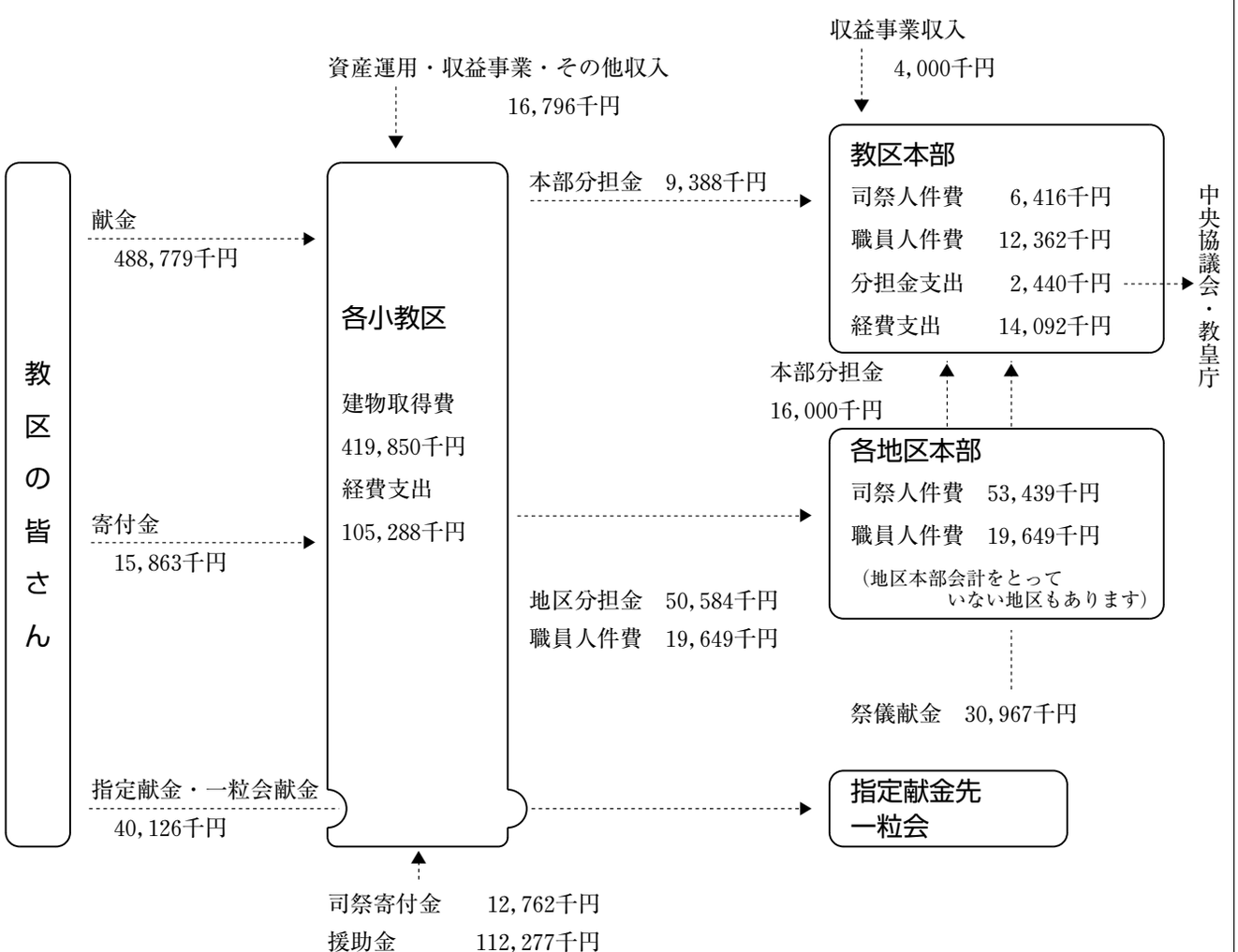
さらには、司教館の老朽化が進み、６月下旬から大規模な修繕を行っている実情です。

◇　小教区財政

小教区では、聖堂の老朽化による修繕や建て替えを検討しているところもあり、小規模な小教区では、独自に行うことが難しいところもあり、今後の検討課題となろう。また、司祭の賄さんを独自に手当てするのが難しい小教区もあり、これらのことを、地区全体、若しくは、教区全体で対処する方向性を検討していく必要性が近い将来求められるだろう。

北海道ダルク・たか作

＝札幌教区の主な収入と支出の流れ＝
（2004年４月１日～2005年３月31日）



2005年WYD ケルン大会へ教区から

＝11名の青年が参加＝

8月16日（火）から21日（日）の6日間に行われるワールドユースデイ本大会に参加するため、札幌教区から11名の青年が8月9日（火）と15日（月）に分かれて、他の教区から参加する青年たちとともに成田を出発する。

参加に先立ち、7月9日（土）に、札幌教区から参加する青年たちの結団式が、聖ベネディクトハウスで行われた。

ケルン本大会は、ケルン大司教区のマイスナー枢機卿が司式する大会開会ミサで開幕する。

大会期間中には、司教によるカテケーシス、ゆるしの秘跡、教皇様歓迎式典、十字架の道行き、ユースフェスティバルなどが行われ、21日午前中に行われる教皇ベネディクト16世司式のミサで閉幕する。

4年に1度開催されるWYDに参加し、多くの国々の青年たちと交流を重ね、パパ様と直に接し、多くのさまざまな恵みを受け、WYDで得たものを、これからの人生や教区の活動をはじめ多くのことに生かしてくれることであろう。

教区の皆様とともに、大会の成功と参加する青年たちの健康と安全を心から祈りたいと思う。

北海道ダルク・たか作

金祝おめでとうございます

◇ オニール神父様金祝

5月15日（日）にオニール神父様の叙階の金祝を祝うパーティーが静内町のホテルで行われた。

― お祝いの聖歌 ―

◇ ウィンダル神父様金祝

5月29日（日）にウィンダル神父様の叙階の金祝を祝うパーティーが行われた。

― 地区長お祝いの言葉 ―

札幌教区６地区の行事　2005年８月～10月

札幌地区

８月12日（金）	平和講演会（北１条カテドラルホール）
15日（日）	平和祈願ミサ・平和行進（北１条教会）
10月２日（日）	使徒職大会（藤学園）
16日（日）	共同墓参

旭川地区

８月１日（月）～３日（水）	旭川市内合同サマースクール（江丹別若者センター）
15日（月）	旭川市内合同墓参
20日（土）	旭川市内教会学校合同こどもの為のミサと初聖体クラス勉強会（大町教会）
21日（日）	旭川地区カトリック大会・堅信式（大雪クリスタルホール）
９月３日（土）	旭川市内教会学校合同こどもの為のミサと初聖体クラス勉強会（大町教会）
５日（月）～10日（土）	フランシスコ会北海道ブロック黙想会（花川マリア院）
18日（日）～20日（火）	旭川市内３カトリック幼稚園合同研修旅行（愛・地球博）
10月１日（土）	旭川市内教会学校合同こどもの為のミサと初聖体クラス勉強会（大町教会）
５日（水）～６日（木）	旭川地区司祭会議（カトリックセンター）
30日（日）	旭川地区合同初聖体式（旭川５条教会）

函館地区

８月６日（土）	函館･道南キリスト者平和祈祷集会(宮前町教会)
21日（日）	地区合同ミサ・親睦会（宮前町教会）
９月11日（日）	地区合同堅信式（宮前町教会）
18日（日）	函館市内教会合同墓参
10月８日（土）～９日（日）	地区合同黙想会（宮前町教会）

釧路地区

８月28日（日）	釧路地区信徒大会「ご聖体」（釧路教会）

苫小牧地区

８月７日（日）	表町・新富町教会合同墓参
14日（日）	室蘭・東室蘭教会共同墓参
21日（日）	統合委員会（表町教会）
28日（日）～29日（月）	苫小牧地区女性大会
９月11日（日）	臨時信徒総会（表町・新富町教会）
18日（日）	室蘭教会バザー
25日（日）	聖母幼稚園・新富町教会合同バザー、東室案教会バザー
10月２日（日）	表町教会バザー
16日（日）	苫小牧地区信徒大会（苫小牧市民会館）
30日（日）	室蘭ブロック４教会合同ミサ（伊達教会）

北見地区

８月７日（日）～９日（火）	オホーツク夏期学校（富里ダムキャンプ場）
28日（日）	北見地区50周年記念式典（北見教会）

北海道ダルク1周年フォーラムのお知らせ

札幌で、ダルクのデイ・ケアがスタートしたのが昨年の8月でした。1周年を記念してダルクフォーラムを次の内容で開催します。

倉田めばさんの講演「刑罰より治療を」に引き続きゲストの倉田めばさん・コメンテーターに旭山病院（副院長）芦沢健氏と磯田丈弘法律相談事務所（弁護士）磯田丈弘氏・司会はそれいゆ共同作業所（責任者）大島栄子さんを迎え、薬物依存症の現場に関わる4名の方々に「日本におけるドラッグコートの実現は可能か?」と言うテーマで、医療・司法・当事者・現場の方々にそれぞれの立場をこえて話し合っていただくトークをご期待下さい！

ドラッグコート

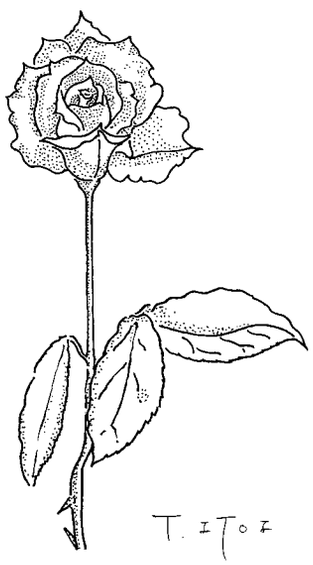
薬物治療法廷、ドラッグ・トリートメント・コート（DTC）は、約13年前にアメリカで生まれた画期的な裁判制度です。薬物事犯者に対して刑罰を科すのではなく、治療・回復プログラムを選択させる法制度です。

連絡先
北海道ダルク
札幌市中央区北1条東6丁目10番地
TEL　011−221−0919
FAX　011−221−0920

日時　2005年8月27日(土)　午後1時〜午後4時30分　場所　札幌弁護士会館5階　札幌市中央区北1条西10丁目

プログラム

1：00　開会の挨拶
芦沢　健氏（旭山病院副院長）
1：15
北海道ダルク利用者　体験談
2：00
休憩
2：15　基調講演　「刑罰より治療を」
講師　倉田　めばさん
3：15　日本におけるドラッグコートの実現は可能か？
コメンテーター　芦沢　健氏
磯田　丈弘氏
4：15　閉会の挨拶
（北海道ダルク　施設長　森　亨）
4：30



北海道ダルク・たか作

訃報

★安らかにお休み下さい

SR．セシリア多田イチ子
（マリアの宣教者フランシスコ修道会）
1928年5月20日生まれ
1956年7月20日　修道会入会
1967年3月19日　終生誓願
2005年6月18日帰天
修道生活48年

SR．Mアントニ柴田律子
（殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会）
1943年10月6日生まれ
1965年3月30日　修道会入会
1968年1月12日初誓願
1975年8月12日　終生誓願
2005年6月22日帰天

教区の風

＝助けを与えられるだけでは心は満たされない＝

NPO活動やボランティア活動が注目を集めている昨今ですが、その活動をしていく中で少し考えてみたいことがあります。

それは、職場での悩みを抱える人への森司教様が応えるある記事で拝見した「エーゼルとケネグドー」の考え方です。

エーゼルは、困っている人や行き詰っている人に手を差し伸べていく者という意味で縦の関係であり、ケネグドーは、合うという意味で、同じ人間として互いに裸になって向き合うという横の関わりにアクセントが置かれていると書かれています。

そして、助ける側と助けられ側の関わりが永続していくためには、それぞれが人間として向き合うこと、助け合うことが必要であるということを語っておられました。

さて、自分に問いかけてみるとどうだろうか。今まで、私は、そして参加してきたボランティア活動はどうだっただろうか。

ともすれば奉仕する側の自己満足だけの助け舟的活動で終わってはいなかっただろうか。相手と同じ目線に立った奉仕活動を行ってきたのだろうか。様々な思いが廻ってきます。

現在、カトリック系には、さまざまな社会福祉活動やボランティア活動が存在し、さまざまな活動を行っています。エーゼルだけの活動団体はないでしょうか。これから、多くのボランティア団体やNPO法人ができては消えて淘汰されていくでしょう。その中で生き残っていくためにも、今一度、キリスト教精神に立ち返り、それぞれが人間として向き合い、共感し合える助け合いを行うことを、改めて見つめなおす必要性を痛感しますが、皆様はいかがお考えでしょうか。

（札幌地区　風さん）

編集後記

札幌教区報のダイジェスト版・札幌教区ニュース第1号の発行です。

札幌教区ニュースでは、教区の信仰に対する考え方をお伝えすると同時に、教区の行事・各地区の行事やその取り組みの紹介、各種団体の活動予定の掲載、信徒からの寄稿記事を掲載するなど、皆様のご協力を頂きながら、双方向の記事掲載を心がけていきたいと考えています。

今回は、各地区長の神父様方を初め、信徒の皆様からのご協力を頂き、情報を掲載させて頂くことができました。ご協力に感謝申し上げます。

また現在、教区ウェブページのリニューアルをはかり、作成作業を進めております。これから情報のタイムリーな公開に努めていきたいと考えておりますので、あわせまして、こちらへも皆様のご意見や情報の提供のご協力を宜しくお願いいたします。